

それぞれの旅立ち



3月8日、令和5年度卒業証書授与式を挙行了しました。それまでの天気予報を見事に覆し、青空も見える穏やかな一日になりました。今年は学校運営協議会の委員の皆様にも多数お越しいただき、門出を見守っていただきました。

今年の卒業生は、小学部4名、中学部7名、高等部15名の計26名でした。小学部の児童は中学部で着る新しい大きめの制服に身を包み少し気恥ずかしそう、中学部・高等部の生徒も緊張気味の表情で体育館へ入場しました。

卒業証書授与では、一人一人が大きな声で返事をし、しっかりとお客様に向かってお辞儀をしたり、壇上でもまっすぐ校長の顔を見て、胸を張って堂々と証書を受け取ったりする姿に、渡す側としても誇らしく、胸が熱くなる思いでした。保護者の方々にあればなおさら、小学部、中学部、高等部とそれぞれの年数は違いますが、これまで過ごした日々を思い出し、我が子の晴れ姿に感慨もひとしおのことだったでしょう。

卒業生と在校生とで交わした「よろこびのことば」の呼び掛けは、高等部3年生の言葉の中で「友達と気持ちがいずれ違ふ悩んだ1年生」「少しずつ分かり合い、15人の和を築き上げた2年生」そして3年生では様々な活動での感動、達成感を感じたと述べ、「3年生全員が大きく成長しました」「和の心、絆を大切に15人で3年間歩んできた」「楽しかったこと、嬉しかったこと、涙したこと、今はいい思い出」と結びました。順風満帆ではなかったけれど、それを乗り越えて個々が成長し、結び付きが強まった、そんな経験ができるのは学校ならではのようです。トラブルもなく、穏やかに過ごせばそれはそれで居心地が良いのでしょうか、回り道をしたからこそ、お互いを分かろうとし、認め合える仲間になれたのではないのでしょうか。この過程が大事な学びだったのですね。

また、在校生代表で参列した高等部2年生も涙で声を詰まらせる場面も多々あり、寄宿舎や学年縦割りの学習、部活動などで接した頼もしい先輩方との別れを心から惜しむ姿に、見ている側もぐっときました。

高等部3年生は、これからは学校を離れ、それぞれの道を歩んでいきます。15名のこれからの人生が明るく楽しく豊かなものになりますよう願っています。そしてより支援学校での思い出が一人一人の人生に色を添え、仲間とのつながりや生きる希望を実感できるそんな場であり続けたいと思います。



さて、在校生も3月21日、修了式で確かな成長の姿を見せてくれました。学年代表の児童生徒は本当に堂々と証書を受け取りました。この4月からは一つ上の学年に、そして新入生を迎え、より支援学校の新たな1ページが始まります。さてどんな人、もの、学びとの出会いが待っているのでしょうか。勇気を出して一歩踏み出しましょう。

R6.3月

校長 近藤 千晴